The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	チャック語のことわざとなぞなぞ
Author(s)	藤原, 敬介
Citation	印度民俗研究. 2018, 17, p. 65-81
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68347
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

チャック語のことわざとなぞなぞ

藤原　敬介

目次

1. はじめに
2. 表記上の注意
3. チャック語とサック語の主要な音対応
4. 略号一覧
5. ことわざ
6. なぞなぞ
参考文献

1　はじめに

本稿ではバングラデシュ・チッタゴン丘陵ではなされるチャック語（Cak: チベット・ビルマ語派ルイ語群）のことわざとなぞなぞを紹介する。チャック語はビルマ・ラカイン州でもはなされており、現地ではサック語（Sak）としてしられている。チャック語とサック語では音声に多少の相違はあるけれども、基本的には相互理解が可能であるほどに類似している。

チャック語のことわざについては藤原［2017］で紹介したことがある。今回紹介することわざは、その後ビルマで収集したものである。

なぞなぞについては、チャック文化についてかかれた Mong Nu Cing［1998］に紹介されているものを基本とし、ビルマで収集したものも追加している。

訳出には、筆者にチャック語をおしえてくれているオン・トワイン・ギョー・チャックさん（ʔoŋ thwáiŋ gyo caʔ: 1979 生、バイシャリ出身）の協力をえた。

チャック語についての先行研究としては文法の網羅的記述である藤原［2008］のほか、辞書として Huziwara［2016］がある。サック語については Luce［1985］に基礎語彙が数百語あがる。サック人の民族誌の一部として Thun Shwe Khaing［1988］に簡易文法と基礎語彙がある。また Moe Sandar［2010］はサック語の文法である。

2　表記上の注意

本稿におけるチャック語は筆者による音素表記である。

チャック語の音素は/p, ph [pʰ], b, t, th [tʰ], d, c [ts], ch [tsʰ], j [z], k, kh [kʰ], g, ʔ*, ɓ, ɗ, v, s, ʃ[注1], h, m, n, ŋ*, l, r**, w**, y [j]**; i, e, ai（閉音節のみ）, a, o, u, ɨ, ɯ, ə/である。*は末子音としてもあらわれうるものを、**は子音連続の第二要素としてあらわれるものをしめす。このほか低声調（アクセント記号なし）と高声調（鋭アクセント記号 ́でしめす）が弁別的である。

語末の-a はしばしば弱化して-əとなり、後続する要素と一体化して、

注1 /ʃ/は音声的には [ɕ] にちかいけれども、みやすさを重視して/ʃ/で表記する。

一音節半語のように発音される傾向にある。藤原［2008］などでは実際の発音に即して弱化した-əで表記していた。しかし本稿では、弱化しうる環境が予測可能であることから、弱化していない形式である-aのまま表記している。なお、弱化しうる環境は語境界、接語境界、接辞境界である。

3　チャック語とサック語の主要な音対応

チャック語とサック語の主要な音対応は表 1 と表 2 のとおりである。Cak B はチャック語バイシャリ方言、Sak A は老年層（おおよそ 1965 年以前にうまれた人）のサック語、Sak B は若年層（おおよそ 1965 年以降にうまれた人）のサック語であることをしめす。

本稿では、本来はサック語の資料であっても、「サック語のチャック語風表記」を採用して表記する。この表記は、表 1 と表 2 に代表される音対応から推定される表記のことである。

ただし、表 1 の対応からわかるように、サック語で [s^h] があらわれるとき、対応するチャック語は/ch/または/s/である[注2]。したがって、対応するチャック語が未確認であるとき、サック語の形式のみからチャック語の形式を推定することはできない。

そのようなばあい、本稿ではビルマ語の同源形式を参照する。そして、ビルマ文語で <ch> であれば/ch/、<s> であれば/s/で対応するとみなしている。

なお、チャック語とサック語の音対応は、概略、文語ビルマ語と口語ビルマ語との対応とおなじである。このことは、サック語が口語ビルマ語の影響をうけて変化してきていることをしめしているようにおもわれる。

表 1　チャック語とサック語の主要頭子音対応

Cak B	/c/ [ts]	/ch/ [ts^h]	/j/ [dz] ～ [z]	/s/ [s]	/ky/ [k^j]	/gy/ [g^j]
Sak A	/c/ [ts]	/s/ [s^h]	/j/ [z]	/s/ [s^h]	/cy/ [tɕ]	/jy/ [dʑ]
Sak B	/s/ [s]	/sh/ [s^h]	/z/ [z]	/sh/ [s^h]	/c/ [tɕ]	/j/ [dʑ]

注2 チャック語では [s] と [s^h] が区別されない。/s/の代表音は [s] であるけれども、サック語にみられる [s^h] とも、音声的にはちがいがないとおもわれる。

表 2 では () でしめした母音は発音する話者もいれば、しない話者もいる。発音するばあいは、口語ビルマ語の韻母によりちかい発音である。傾向としては、発音する話者のほうがおおくなってきている。

表 2　チャック語とサック語の主要韻母対応

Cak B	/iʔ/	/iŋ/	/uʔ/	/uŋ/	/oʔ/	/oŋ/
Sak A	/(e)iʔ/	/(e)iŋ/	/(o)uʔ/	/(o)uŋ/	/oʔ/～/auʔ/	/oŋ/～/auŋ/
Sak B	/eiʔ/	/eiŋ/	/ouʔ/	/ouŋ/	/auʔ/	/auŋ/

4　記号・略号一覧

/A/	A は音素表記
+	複合語境界
-	接辞境界
=	接語境界
CL（CLassifier）	類別詞
COND（CONDitional）	条件
CONT（CONTinuous）	継続
DP（Dynamic Predicate marker）	動態述部標識
FUT（FUTure）	未来
GEN（GENitive）	属格
IMP（IMPerative）	命令
LOC（LOCative）	場所格
NEG（NEGative）	否定
NMLS（NoMinaLiSer）	名詞化標識
OBJ（OBJective）	目的格
ONOM（ONOMatopoeia）	オノマトペ
SEQ（SEQuential）	継起
TOP（TOPic）	主題

5　ことわざ

藤原［2017］で紹介したことわざのうち、ビルマでは表現に相違があるものについて（1）に紹介する。a. に藤原［2017］で紹介したチャック語を再掲する。b. にサック語形式をチャック語風に表記したものを、c. に対応するビルマ語のことわざを提示する。d. に対応するバングラ語のことわざを再掲する。

(1) a. *ka* *=a* *vaiŋ* *=ŋa* *túŋ* *=goʔ,* *ʔɨ́* *ʔa-* *rəmáʔ*
place.under =LOC fire =LOC sit =SEQ water NEG- be.thirsty
=ʔéʔ.
=NEG.IMP
下に火のあるところにすわって水をもとめるな［藤原 2017（16）］
注 日本語では「ないものねだりをする」、「山上に魚をもとむ」に相当する

b. *kəváiŋ =ŋa* *túŋ =goʔ ʔɨ́* *rəmáʔ =heʔ.*
raft =LOC stay =SEQ water long.for =DP
筏に乗って喉がかわく
注 対応するバングラ語のことわざでは「浮いた筏に乗って、喉がかわくのはおかしい」という。サック語での表現形式は、バングラ語の表現形式とほぼ一致し、下掲するビルマ語の表現形式と完全に一致する。（1a）のチャック語形式はバングラ文字で表記されたチャック語から再現されたものであった。他方、チャック語で *kəváiŋ* “raft” という単語をしる人はすくない。そこで、理解可能な形式である *ka=a vaiŋ=ŋa* “place.under=LOC fire=LOC” と解釈された可能性がある。

c. ဖောင်စီးရင်း ရေငတ်။
筏に乗りつつ、喉がかわく

d. ভাসমান ভেলায় বসে পিপাসা পাওয়া ঠিক নয়।
浮いた筏に乗って、喉がかわくのはおかしい

（2）～（4）は、ビルマであらたに収集したことわざである。a. にサック語をチャック語風に表記したもの、b. にビルマ語で対応することわ

ざ、c. にバングラ語で対応することわざをしめした。

(2) a. *ʔɨ̀ =ʔaŋ váiŋ =goʔ ʔámaiŋ ʔá- ŋa =ɓɯʔ.*
water =OBJ cut =SEQ wound NEG- exist =NEG.DP
水をきって、怪我はない
注「いくらいってもきかない」という意味。日本語では「のれんに腕押し」に対応する。ビルマ語やバングラ語の表現形式とほぼ一致する。

b. ရေကိုခုတ်လို့ အရာမပေါ်။
水をきって、怪我はしない

c. পানিকে কেটলেও ঘা হয় না।
水をきっても、怪我はしない

(3) a. *kvu +ʔakəná =ʔa púli muʔ =ká =dəle.*
dog +ear =LOC flute blow =NMLS =like
犬の耳元で笛をふくようなもの
注 日本語では「馬の耳に念仏」に対応する。バングラデシュで確認したところ、*kvu* “dog” ではなく *kəyvu* “rat” をつかうということであった。しかし、対応するビルマ語やバングラ語の表現形式から判断して、*kvu* “dog” でよいのではないかとおもわれる。

b. ကွဲပါးဆောင်းတီး။
犬の側で竪琴をひく

c. কুকুরের কানে বাঁশি বাজানোর মত।
犬の耳元で笛をふくようなもの

(4) a. *phábrɨʔ +ʔakəná the =goʔ ʔa- phríŋ =ɓɯʔ.*
frog +ear put.inside =SEQ NEG- be.filled =NEG.DP
蛙の耳にいれても満ちない
注 きりがないとか意味がないということをあらわす。日本語では「穴のあいたバケツに水をそそぐ」に対応する。

b. ကြွက်တွင်းရေလောင်း။
鼠の井戸に水をいれる

c. バングラ語で対応する表現は不明である。

6　なぞなぞ

チャック語ではなぞなぞのことを *ʔapáiŋ ʔasé=heʔ=ká* “flower hide=DP=NMLS”「花をかくすこと」と表現する。ことわざをしっている人がすくないのに対して、なぞなぞはこどもでもしっていることがおおい。

（5）～（16）は、Mong Nu Cing［1998: 35］に紹介されているチャック語のなぞなぞである。バングラ文字で表記されたチャック語から推定される表現を、語釈をつけてしめした。a. にはなぞなぞ、b. には「こたえ」を提示した。

(5) a. *tuŋbúʔsa púʔ -ta =aŋ =ŋuʔ, ʔabré hrɨ =góʔ ʔa-*
small.hill CL:hill -one =OBJ =too totally polish =SEQ NEG-
kəná =ɓuʔ, práiŋ =goʔ ʔátvu =heʔ.
manage.to.do =NEG.DP again =SEQ come.out =DP
ちいさい丘の一つで、完全にきれいにしてしまうことができなくて、また生えてくる

b. *ʔáphre: ʔahú raiʔ =heʔ =ká.*
answer head shave =DP =NMLS
答: 頭を剃ること

(6) a. *ʔánvu hraʔ laŋ, ʔása pra laŋ.*
mother cry go son become.big go
母が泣けば泣くほど、息子が大きくなる
注 “V1 laŋ, V2 laŋ” で「V1 すればするほど V2 する」という意味。（8）も類例である。

b. *ʔáphre: rəhaiʔ ʔɨŋ =heʔ =ká.*
answer spinning.wheel spin =NMLS =NMLS
答: 糸紡ぎ機をつかうこと

(7) a. *ʔakó =neʔ sɨʔ -ta, wí =neʔ búŋ =goʔ.*

hold =COND CL:fist -one throw.away =COND be.many =SEQ

つかむとこぶし一つ、ほりなげるとたくさん

b. *ʔáphre: táiŋniŋ kráiŋ =heʔ =ká.*

answer fishing.net cast =DP =NMLS

答: 網をはなつこと

(8) a. *yu laŋ, caiŋ laŋ.*

watch go be.far go

見にいけばいくほど、遠くに行く

注 ほぼ同様のなぞなぞが藪［1984: 182 b#11］ではビルマ語のなぞなぞとして「見ようとすればするほど遠くなり、遠くなればなるほど見ようとする」と紹介されている。なお、そのなぞなぞのこたえは「耳たぶ」とされている。

b. *ʔáphre: ʔakəná.*

answer ear

答: 耳

(9) a. *láŋ =dáiŋ láŋ =dáiŋ ʔúʔʔúʔ kəphe =heʔ.*

CL:road =each CL:road =each ONOM kick =DP

道ごと道ごとにウッウッと蹴る

b. *ʔáphre: ʔúkəpháŋ.*

answer stairsteps

答: 階段

(10) a. *tuŋbúʔsa púʔ -ta =gɯʔ, hó yáŋ -na təlɯ =heʔ.*

small.hill CL:hill -one =TOP boat CL:vehicle -one go.over.mountain =DP

ちいさい丘のひとつで、船が一艘越える

b. *ʔáphre: ʔahú ʔásɨ =heʔ =ká.*

answer head comb =DP =NMLS

答: 頭を櫛でとくこと

(11) a. *kaŋba +káiŋná =a =gɯʔ, ʔula +ʃá -sa ma -ɾa*
cliff +edge =LOC =TOP cock +red -small CL:animal -one
kɯ -túŋ =heʔ.
cock.crows -CONT =DP
山の斜面で赤いオンドリ一羽が鳴いている

b. *ʔáphre: cəʔúphu.*
answer banana.flower
答: バナナの花

(12) a. *laŋ =heʔ =ká =ɾaiʔ, hú -wa =húʔ, vaiŋ =heʔ =ká*
go =DP =NMLS =time CL:human -one =only come =DP =NMLS
=ɾaiʔ, kríŋkríŋ.
=time in.crowds
行くときは一人だけ、来るときはたくさん

b. *ʔáphre: vaʔ +sa ke =heʔ =ká.*
answer pig +child be.born =DP =NMLS
答: 豚のこどもがうまれること

(13) a. *kaŋba +káiŋná =a =gɯʔ, ʔásɨ níŋ -hvú ʔanúɯ -túŋ =heʔ.*
clif +edge =LOC =TOP fruit two -CL:general hang -CONT =DP
山の斜面に実がふたつなっている

b. *ʔáphre: ʔácuʔ.*
answer bosom
答: 乳房

(14) a. *ŋa =gá ʔáwaiʔ tó -wa =gɯʔ, ʔatíʔ =koʔ ʔa-*
I =GEN cloth CL:cloth -one =TOP cause.to.get.wet =SEQ NEG-
kyí =ɓɯʔ.
get.wet =NEG.DP
わたしの服は濡らしても濡れない

b. *ʔáphre: príŋ +taʔ.*
answer taro +leaf
答: 小芋の葉

(15) a. *ŋa +kíŋ =ya =gɯʔ, wvukvú ta -ra taiŋ +pí =heʔ.*

I +house =LOC =TOP elephant CL:animal -one bind +put =DP

わたしの家では象一匹をしばっておいている

注 ŋa “I” が所有者をあらわし、被所有物の名詞が直接後続するとき、ŋa の母音は弱化しない。なお所有標識の=gáが ŋa に後続するときには、ŋa は弱化して [ŋə] となる。

b. *ʔáphre: kíŋ +ʔaŋdəríʔ.*

answer house +shadow

答: 家の影

(16) a. *ʔɨhwaiŋsa hwaiŋ -na =a =gɯʔ, kəsɯʔ ma -ra ɓuʔ -túŋ =heʔ.*

puddle CL:puddle -one =LOC =TOP frog CL:animal -one lie.low -CONT =DP

水溜りに蛙が一匹ふせている

b. *ʔáphre: ʔasəlíʔ.*

answer tongue

答: 舌

（17）～（34）はサック語話者からおしえていただいたなぞなぞである。表記はチャック語風に変更した。

(17) a. *ʔapháŋ +phúŋ =ŋa ʔásɨ sɨ =heʔ, ʔásɨ =gá ʔaphúŋ =ŋa ʔapháŋ pho =heʔ.*

tree +place.above =LOC fruit bear.fruit =DP fruit =GEN place.above =LOC tree appear =DP

木の上に実が実り、実の上に木が生える

注 ほぼ同様のなぞなぞが奈良［1984: 166 #56］ではシンハラ語のなぞなぞとして「木の上に実、実の上に木」として紹介されている。また、類似したなぞなぞが藪［1984: 175 a#9］ではビルマ語のなぞなぞとして「実の上に木が生え、1 本足で立っている」として紹介されている。

b. *ʔáphre: naiŋdɔ́rasɨ́.*

answer pineapple

答: パイナップル

(18) a. *kíŋ =dáiŋ kíŋ =dáiŋ =ya mepoʔ ŋa =heʔ.*

house =each house =each =LOC gun exist =DP

家ごとに銃がある

注 *mepoʔ* “gun” は *nepoʔ* ともいう。

b. *ʔáphre*: *paiŋdú*

answer tobacco.pipe

答: タバコのパイプ

(19) a. *níŋ -hú laŋ =gá, vaiŋ =nəkɯʔ, hú -wa =həhúʔ.*

two -CL:man go ==NMLS come =COND CL:man -one =alone

二人でいって、一人だけでもどる

b. *ʔáphre*: *ʃiloka*

answer shit.spatula

答: 糞べら

注 便所にいくときは糞べらと一緒にいくけど、用をたしたら糞べらはすてて、一人でかえるので。

(20) a. *praŋ =ŋa səmuʔ ta -ra məríŋ -túŋ =gá =heʔ.*

open.space =LOC cattle CL:animal -one bark -CONT =NMLS =DP

空き地で牛が一頭ないている

b. *ʔáphre*: *lebraŋ +ɓáʔla tɨŋ =heʔ.*

answer paddy.field +clappers beat.musical.instrument =DP

答: 田んぼ用の拍子木をたたく

注 *ɓáʔla* “clappers” は、ニワトリをおいたてるために使用する竹製の板。二枚一組で、板同士を叩いて音をだす。ただし、この単語はあまりしられていないようである。

(21) a. *ʔapháŋ pháŋ -na ʃe =gó ʔula ma -ra kɯ -túŋ =heʔ.*

tree CL:tree -one climb =SEQ cock CL:animal -one cock.crows -CONT =DP

木の上にのぼり、オンドリが一羽ないている

注 *=gó* “=SEQ” は、バングラデシュでは語末に声門閉鎖音がついた*=goʔ* で発音される傾向にある。また、バングラデシュでは常に低声調である。しかしビルマでは、声門閉鎖音

をともなわずに発音されることがおおい。そして、規則的な変調をしめす。すなわち、高声調のあとでは低声調、低声調のあとでは高声調であらわれる傾向にある[注3]。

b. *ʔáphre*: *cəʔúphu.*

answer banana.flower

答: バナナの花

(22) a. *niŋ -na haʔ -ta vaiŋ =heʔ, ŋalémáŋlóŋ thí +phru chóŋ.*

CL:year -one CL:time -one come =DP ONOM umbrella +white open.umbrella

一年に一度きて、白い傘をひらく

注 ほぼ同様のなぞなぞが藪［1984: 175 a#11］では「1 年に 1 度出てくるだけだが、ぼくは王様だ、白い傘をさして」として紹介されている。なお、そのなぞなぞのこたえは単に「キノコ」とされている。

b. *ʔáphre*: *tuŋbúʔkəmúkaiŋ.*

answer white.wild.mushroom

白い山きのこ

(23) a. *thiŋ =ná =gá naŋnvu =wa, səmuʔ ʔá- sa =ɓɯʔ.*

village =place.near =GEN grass =LOC cattle NEG- eat =NEG.DP

村のちかくの草場で牛は食べない

b. *ʔáphre*: *ʔákyokaiŋtaʔ*

answer leaf.of.taro

答: タロイモの葉

注3 バングラデシュでも同様の変調があると筆者は判断していた［藤原 2008 など］。しかし、その変調は、*=goʔ*/*=koʔ* が節末にあらわれ、節末のイントネーションとかさなっているためのものであり、かならずしも高声調で発音されるわけではないとわかった。ビルマでも、イントネーションとかさなって高声調にきこえている可能性はある。ただし、ビルマのサック語話者によると、この従属節標識をビルマ文字で表記するとすれば、高声調と低声調でかきわけることができる。

(24) a. *laŋ =mə́rái? =?a kə́taŋ súŋ -yoŋ yó =he?.*

go =time.when =LOC chopper three -CL:chopper go.together =DP

行く時に包丁三本と一緒にいく

b. *?áphre: ŋəcərái?.*

answer kind.of.fish

答: *ŋəcərái?*（ナマズの一種）

注 *ŋəcərái?* は、バングラデシュでは *ŋə́cəraiŋ* とよばれるナマズとおなじものではないかとおもわれる。もしもそうであれば、“striped dwarf catfish; *Mystus vittatus*” である。

(25) a. *wvukvú =gá ?apɨ́?húŋ =ŋa kə́tuŋsa báŋbáŋ.*

elephant =GEN belly.hole =LOC magot many

象のお腹の穴に蛆虫がたくさん

b. *?áphre: pú?ti?.*

answer tiffin.carrier

答: 弁当箱

(26) a. *kíŋ =dáiŋ kíŋ =dáiŋ ʃása ŋa =he?.*

house =each house =each red.small exist =DP

家ごとに小さい赤いのがある

b. *?áphre: vaiŋ.*

answer fire

答: 火

注 *ʃása* “red.small” はなぞなぞの答にもあるように、火に対する婉曲表現として普通に使用される。

(27) a. *pesɨ =káiŋná =a yoŋ =go? laŋ =he?.*

river =place.near =LOC wander.about =SEQ go =DP

川のちかくでウロウロして行く

b. *?áphre: yoŋ +só? =he? =ká.*

answer wander.about +search.for.fish =DP =NMLS

答: 魚を手探りでさがすこと

(28) a. *kíŋ =dáiŋ kíŋ =dáiŋ =ya ʔuʃibuŋ ŋa =heʔ.*
house =each house =each =LOC pile.of.fawl.shit exist =DP
家ごとに糞の山がある

b. *ʔáphre: məlipaiʔ.*
answer ring.of.bamboo/cane.rope
答: 竹や籐の紐でつくった輪っか

(29) a. *lú súŋ -hú =gɯʔ ʔatúŋbáŋ lɨʔ -túŋ =heʔ.*
man three -CL:man =TOP meeting work -CONT =DP
人が三人話し合いをしている

b. *ʔáphre: tiʔɨhvú.*
answer trivet
答: 五徳
注 チャック人の五徳は、真ん中に空間ができるように三つの石をならべてつくったかまどのようなもの。この石を土台にして、上に鍋などをのせて、料理する。

(30) a. *kíŋ =dáiŋ kíŋ =dáiŋ cúʔka ŋa =heʔ.*
house =each house =each tomb exist =DP
家ごとに墓がある

b. *ʔáphre: taʔphúŋ.*
answer kitchen.range
答: かまど

(31) a. *kíŋ =ŋaŋ paiʔ =koʔ hraʔ =heʔ.*
house =OBJ go.around =SEQ cry =DP
家をまわって泣く

b. *ʔáphre: mójwáiŋ ʔɨ́ kyo =heʔ =ká.*
answer edge.of.roof water leak =DP =NMLS
答: 屋根の端で雨がしたたること

(32) a. *maiŋsa hú -wa rəhvu kɨ́ŋ =goʔ hraʔ =heʔ.*

child CL:man -one rope pull.out =SEQ cry =DP

こどもが一人紐をひっぱって泣く

b. *ʔáphre: saiŋju mərí̧ŋ =heʔ =ká.*

answer kind.of.bell bark =DP =NMLS

答: 鐘をならすこと

注 *saiŋju* “kind of bell” とは、寺にある細長い棒状の鐘の一種。ビルマ語では သံမဏိ <saṁje> という。

(33) a. *tháŋnaiʔ səphráiŋ =heʔ, thiyaiʔ kəduŋ =heʔ.*

night open =DP day.time wind =DP

夜にひらき、昼間にまいておく

b. *ʔáphre: hráŋɓíŋ.*

answer mat

答: ござ

(34) a. *vaiŋ =gá =raiʔ páiŋləláʔ, thuʔ =ká =raiʔ thɨ́ŋɓəɓuŋ.*

come =NMLS =time.when clean.and.white arrive =NMLS =time.when very.dark

くる時は真っ白、つく時は真っ黒

b. *ʔáphre: tiʔ.*

answer cooking.pot

答: 料理用の鍋

参考文献

[1] 奈良毅（なら・つよし）. 1984.「インド・バングラデシュ・スリランカのなぞなぞ」柴田武・谷川俊太郎・矢川澄子編『世界なぞなぞ大事典』東京: 大修館、pp. 157–171.

[2] 藤原敬介（ふじわら・けいすけ）. 2008.「チャック語の記述言語学的研究」京都大学大学院文学研究科博士論文. lix + 942pp.

[3] 藤原敬介（ふじわら・けいすけ）. 2017.「チャック語のことわざ」『印度民俗研究』16: 3–13.

[4] 藪司郎（やぶ・しろう）. 1984.「ビルマのなぞなぞ」柴田武・谷川俊

太郎・矢川澄子編『世界なぞなぞ大事典』東京: 大修館、pp. 172–185.
[5] মং নু চিং (Mong Nu Cing) 1998. *রাকাহ্* । viii + 38pp. বান্দরবান : উপজাতীয় সাংস্কৃতিক ইন্সটিটিউট.
[6] ထွန်းရှေခိုင် (Thun Shwe Khaing). 1988. ရခိုင်မြောက်ဖျားဒေသမှ သက်တိုင်းရင်းသားများ၊ စစ်တွေကောလိပ်။
[7] မိုးစန္ဒာ (Moe Sandar). 2010. သက်တိုင်းယင်းသား ဘာသာစကား လေ့လာချက်၊ မြန်မာစာဌာန၊ ရန်ကုန်တက္ကသိုလ်။
[8] Huziwara, Keisuke. 2016. *Cak-English-Bangla dictionary: a Tibeto-Burman language spoken in Bangladesh*. Dhaka: A H Development Publishing House.

（附記）本稿は科学研究費補助金（課題番号 16K02691）による研究成果の一部である。